

NEWS ニュース

国際交流基金設立30周年記念・
関西国際センター開設5周年記念シンポジウム

「日本語と日本研究

～ 日本を知るための日本語とは～」

1997年春に設立された国際交流基金関西国際センターは、今年で開設5周年を迎えます。これを記念して、当センターでは、主要事業の一つである「専門日本語研修」に焦点を当て、シンポジウムを開催いたします。これは、現在日本研究の第一線で活躍しておられる方々に、自身の日本語学習経験や現在の研究活動と日本語との関係などについて報告していただき、将来の日本研究者に対する日本語教育はどうあるべきか、という点について議論を深めようというものです。多数の皆様のご来場をお待ちしております。

- ・ 期日：平成14年11月1日(金) 10:30～17:00
- ・ 場所：国際交流基金関西国際センター ホール
- ・ 出席者：(敬称略、括弧内は、所属先名称、専門分野。)

基調講演：

ヨーゼフ・クライナー (ボン大学日本学研究所長・教授、民族学)

報告者：

ジャクリーヌ・ベルント (横浜国立大学助教授、芸術学・視覚文化論)

ジョナ・サルズ (龍谷大学教授、比較演劇論)

マノジュ・シュレスタ (甲南大学教授、経済戦略論)

テリー・マクドゥガル (スタンフォード日本センター所長・教授、政治学)

討論者：

ジュリー・ブロック (京都工芸繊維大学助教授、比較文学・美学)

金 秀芝 (関西国際センター日本語教

育専門員、日本語教育)

司 会：

大坪一夫 (麗澤大学外国語学部教授、日本語教育)

- ・ 申込方法：E-Mail、ファックス、葉書のうち何れかの方法で、氏名・所属・連絡先を明記のうえ、以下の宛先へお申込下さい。折り返し参加案内をお送りいたします。なお、定員(120名)に達し次第締め切ります。

・ E-Mail：kcm@jpf.go.jp, FAX:0724-90-2801

・ 住 所：〒598-0093 大阪府泉南郡田尻町
りんくうポート北 3-14

・ 締め切り：10月25日(金) 必着

・ お問合せ：0724-90-2601

(関西国際センター総務課)

海外用ビデオ教材 「日本語教育用 TVコマーシャル集」

国際交流基金では、日本語教育用映像教材として日本のTVコマーシャルを集めたビデオを制作しました。今年4月上旬に、全世界の基金事務所及び事務所のない国については日本大使館に配布し、既に使用が開始されています。海外でのみ、この教材は使用することができ、日本国内では使用することができません。教材概要は次のとおりです。

1. 制作の趣旨

海外の日本語学習者、特に若い世代の学習者の関心と日本理解を高め、実際の生活で使われている日本語を提供するために制作しました。TVコマーシャルを日本語教材として利用した例はいままでなく、この教材が初めてです。制作にあたっては、コマーシャルの著作権について取り扱っている、ACC・CM情報センターの協力を得ています。

2. 教材の構成(ビデオと付属教材)

ビデオ：第39回(2000年)及び第40回(2001年)全日本CMフェスティバル入賞作品のうち37作品を収録。

付属教材：収録作品の内容を説明した解説書及び作品パネル。監修は聖心女子大学教授・佐久間勝彦先生、執筆は東京外国語大学講師・山田しげみ先生。

3. 使用条件

この教材は日本語教育用として海外で使用することができます。全世界の基金海外事務所(事

務所のない国については日本大使館)を窓口として日本語教育機関に対して貸し出されます。著作権の制限があるため販売は行っておりません。教材が窓口に着かれる期間は3年間(2002年～2005年)で、期間満了後は廃棄される予定です。

なお、日本国内でこの教材を使用することはできませんが、参考・研究目的のため日本語国際センター図書館等での閲覧は可能です。

4. 商業主義との区分け

この教材はTVコマーシャルを素材として制作しておりますが、目的は日本語教育・日本文化理解にあり、特定企業の広告あるいは商品の宣伝を意図するものではありません。

お問い合わせ：048-834-1183

(日本語国際センター制作事業課)

日韓併記オンライン・ニューズレター 『カチの声』創刊

国際交流基金ソウル日本文化センターでは、インターネットで読む日本語学習者向けニューズレター『カチの声』を創刊しました。人気作家の紹介(創刊号は村上春樹のエッセイです)や、日韓文化比較エッセイ、日本の風土・伝統行事や美術館・博物館の紹介等、盛りだくさんの内容と多彩な執筆者の顔ぶれでお届けしています。紙面は日韓併記で、年3回の発行、次号は11月の予定です。閲覧登録画面が韓国語表記のみとなっていますので、韓国語が読めない方は以下を参考にしてください。

『カチの声』を読む方法

ホームページ(<http://www.jpf.or.kr>)右下のカチの声バナーをクリックし、カチの声画面に入る。

閲覧：画面の中ほど、Acrobat Readerのアイコンの右隣にある「1」2002年8月という韓国語をクリックする(表示時間は、Broad Band対応でなければ10分近くかかります)。

メール配信の登録：画面の下半分で行う。記入欄は上から順に、・mailアドレス、・名前(アルファベット)、・性別(左 男、右 女)、・生年月日(年、月、日の順)です。

生年月日欄の下にある二つのボタンのうち、左側が「登録の実行」で、右側が「登録の取消し」です。

読後のご感想、ご意見を編集チーム(gomado@jpf.or.kr)までお寄せください。

編集部から

この原稿を書いているのは、世間ではお盆休みの真っ只中。通勤電車もガラガラです。

今年の東京の夏は、昨年に引き続きの猛暑。屋内は冷房が効いていますが、一步外へ出るとサウナの中を歩くようで、毎日「今日も暑いねえ」が同僚との挨拶になっています。建物が密集している東京は特に、道路のアスファルトの照り返しやエアコンの排気熱などが従来の湿気と相まって、街中は本当に息が詰まりそうなくらい暑い。事実、気象庁の資料によると、東京圏の平均気温は、この100年で約3度(日本全体では1.0度、世界平均で0.6度)上がっているようで、夏は猛暑が長く続き、冬は暖冬というのがこの2～3年の実感です。保育園や学校などでエアコンを設置するよう父母や教師達が要望を出すところが増えて

きているようで、冷房が効いている場所の方が珍しかった私の子供時代(ほんの20数年前ですが)からは隔世の感があります。世界的にも異常気象のようですね。洪水や干ばつに見舞われた地域の方々には心からお見舞い申し上げます。

さて、今号から編集担当者が替まりました。まだまだ、目の前の仕事をこなすのに精一杯で、これまでの通信の積み重ねを辿る余裕もない状態ですが、皆様のご意見・ご批判に耳を傾けながら、日本語の魅力や日本語教育の面白さを様々な角度からお伝えする「通信」をめざして、努力していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。(tt)

編集部では、『日本語教育通信』に対するご意見や皆さんの学校の状況などを書いたお手紙をお待ちしています。

『日本語教育通信』第44号

2002年9月発行

編集・発行 国際交流基金

日本語国際センター 情報交流課

〒336-0002 埼玉県さいたま市北浦和5-6-36

The Japan Foundation

Japanese-Language Institute, Urawa

(6-36 Kita-Urawa 5 Chome, Saitama-shi, Saitama 336-0002, Japan)

TEL. 048-834-1184 FAX. 048-830-1588

E-Mail jfnctt@jpf.go.jp

編集協力

財団法人 国際文化交流推進協会

Japan Association for Cultural Exchange

(ACE Japan)

(表紙イラスト：村井宗二)古紙100%再生紙使用